

# 来週の『売り物』記事はこれ



2016年4月28日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

志望は「東大野球部」 39歳のオールドルーキー 5月1日(日)



昨春、東大野球部に異色の経歴を持つ選手が入部しました。勤務医経験のある医師で現在39歳の伊藤一志さん。小学生の頃から「自分は本当は野球がしたい」という気持ちを抑えて塾に通い、進学校へ進んで医師となりました。しかし、野球への憧れ、そして「格上の相手に勝つなど本来の力量を覆す東大野球部の一員になりたい」という夢をあきらめきれませんでした。医局に参考書を置いて受験勉強を続け、ついに2012年に東大に合格しました。さらに、学生時代は野球に打ち込むため、3年間休学して学費と生活費を蓄えてからの入部です。10、20代の部員に交じって白球を追いかける伊藤さんの姿と、最下位脱出を目指す東大野球部の挑戦を描きました。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

## 「『9条守れば平和』は欺瞞だ」

気鋭の論者が徹底討論

法哲学者 井上達夫氏 VS. 憲法学者 木村草太氏

オピニオン面 [論点] 5月3日(火)



憲法9条には戦後日本が抱える政治的ジレンマが凝縮されているようです。政府が進めた安保法制をめぐる解釈改憲論争もその延長線上にあります。9条とどう向き合うべきなのか。リベラリズムの立場から護憲派憲法学者を批判する法哲学の重鎮、井上達夫氏と、集团的自衛権行使容認反対の立場で活発な発言を続けている気鋭の憲法学者、木村草太氏が討論しました。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。




憲法学者 石川健治・東大教授に聞く

## 最大の危機にある「立憲主義」

夕刊2面特集ワイド 5月2日(月)

5月3日——。「違憲」との批判を浴び、大規模な国会前デモにもつながった安全保障関連法が成立・施行されてから、初めて迎える憲法記念日です。「現代憲法学の鬼才」と評される石川健治・東京大教授は「安倍政権による解釈改憲と安保関連法の成立は、(憲法が権力を縛るとする)立憲主義の破壊であり、私たち国民全員が敗者だ」と厳しく指摘します。平和憲法はどこへ行こうとしているのか。石川教授と考えました。

「Tokiko's Kiss」 おんなのしんぶん  5月2日(月)

歌手の加藤登紀子さんがホスト役を務める対談。今回のゲストは、作家の瀬戸内寂聴さん(93) =写真=です。新緑がまぶしい京都の寂庵で、テーマは「愛と情熱」。話題は「源氏物語」に登場する平安時代の女性の不自由さから、現代の女と男の関係まで、多岐にわたります。寂聴さんが人から話を聴く際に録音もメモもしない理由も明かされます。



## 「となりの障害・吃音」反響特集

くらしナビA面 5月4日(水)



特定の言葉が出にくかったりどもったりする吃音のある人の生きづらさや支援の課題を追った「となりの障害 吃音とともに」(3月17~19日、全3回)に、多くの感想や意見が寄せられました。「吃音自体もちろん辛いですが、理解されないことが最大の辛さだと感じています」という当事者の声もありました。連載記事の反響の一部を紹介します。

## 女性議員どうやって増やすか

くらしナビA面 5月5日(木)

女性の参政権獲得から70年。依然として女性国会議員は1割程度と少なく、政策決定は男性中心です。夫婦同姓・女性のみ再婚禁止期間を定めた民法改正にも関心が集まる中、女性議員を増やそうとする動きが草の根で広がっています。女性候補者の割合を法律で定める「クォーター制」導入を目指す運動や、女性有権者による積極的な政治参加の取り組みに注目します。

